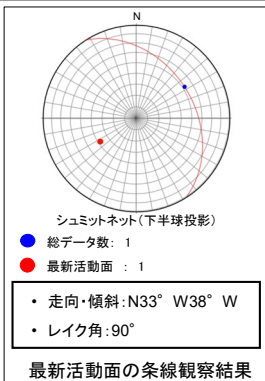


H24-H-6-1 深度9.58~14.36m K断層

・H24-H-6-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度9.58m)の変位センスは、逆断層成分が卓越する。

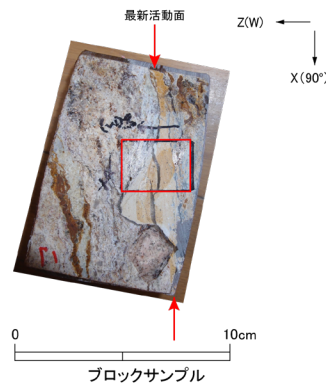
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



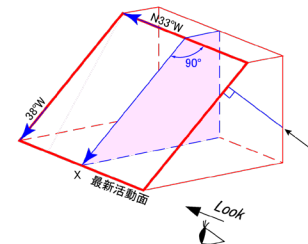
↑ ↓
最新活動面

最新活動面の条線観察結果

↑ ↓
最新活動面

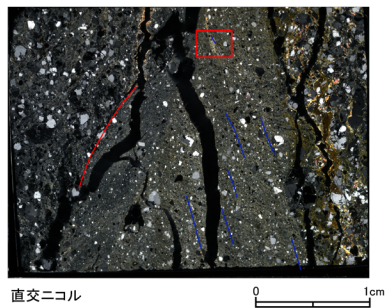
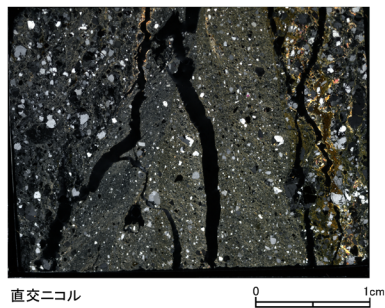
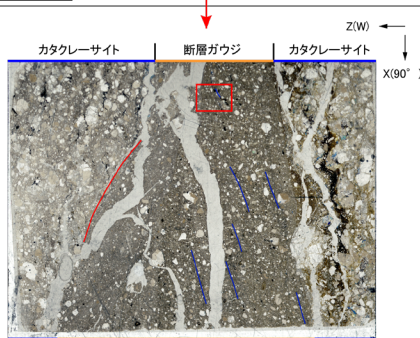
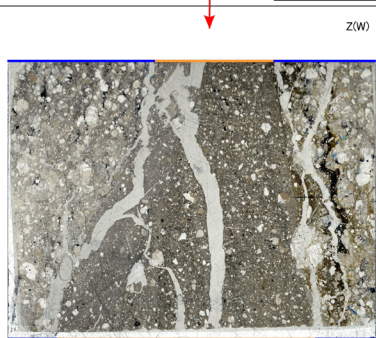


薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

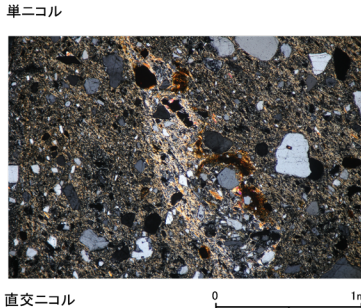
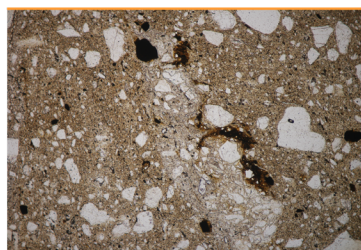


走向・傾斜 N33°W 38°W

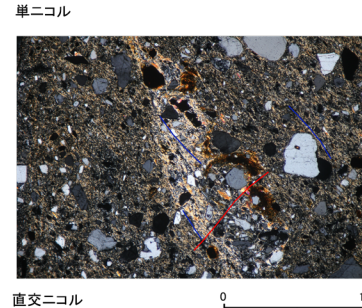
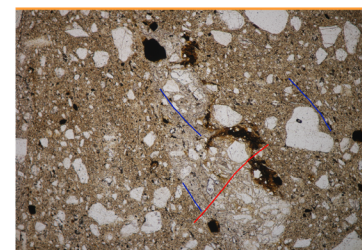
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大



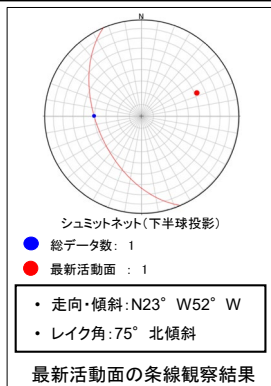
凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H24-H-6 深度9.92~14.69m K断層

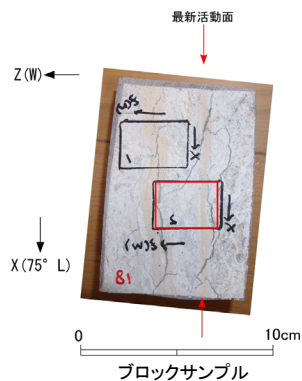
・H24-H-6のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度10.50m)の変位センスは、逆断層成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

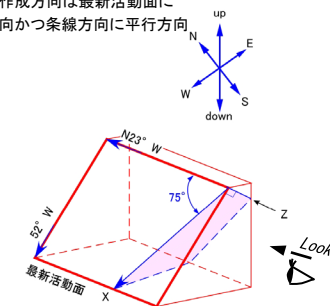


最新活動面

最新活動面



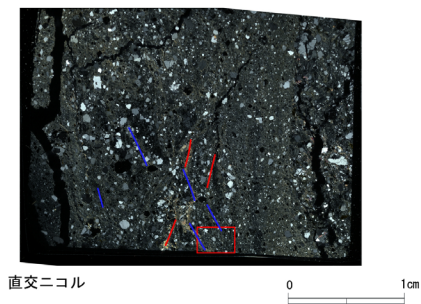
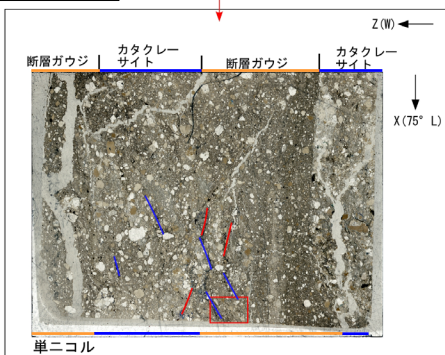
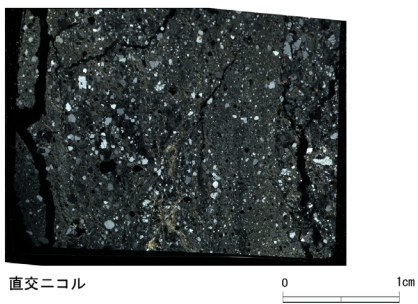
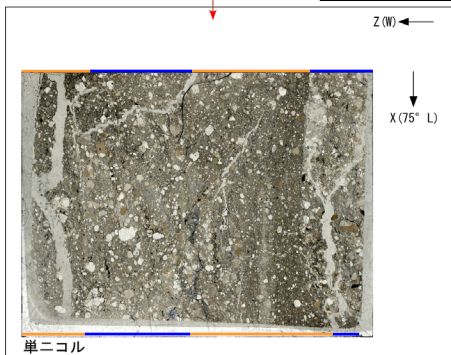
薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



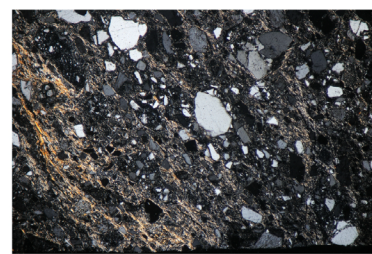
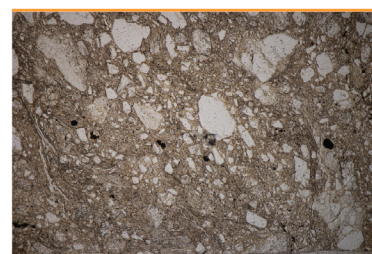
走向・傾斜 N23° W52° W

X: 条線方向(下向きを正とする)

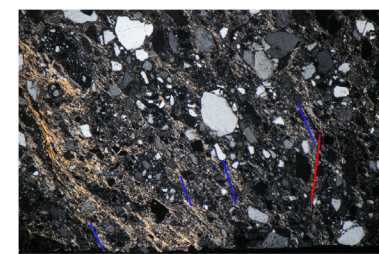
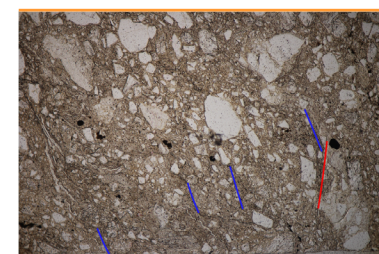
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大



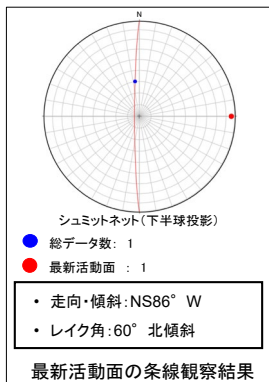
凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H24-H-9-1 深度10.43~11.00m K断層

・H24-H-9-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度10.43m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

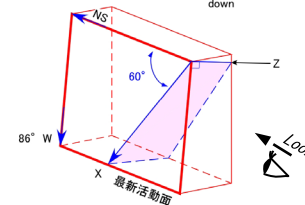
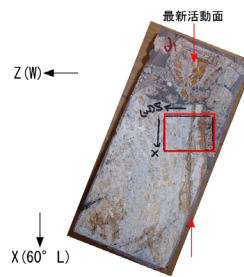
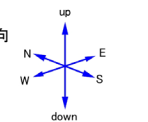


↑ ↓
最新活動面

↑ ↓
最新活動面

最新活動面の条線観察結果

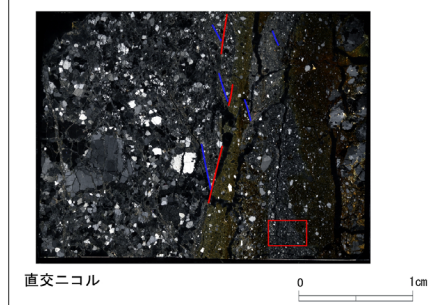
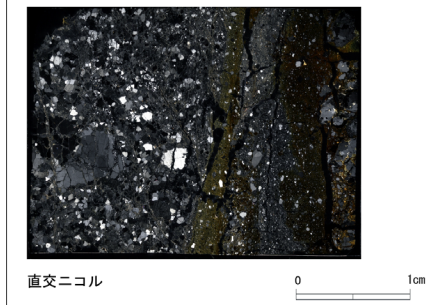
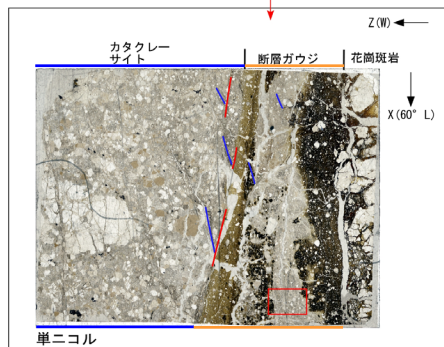
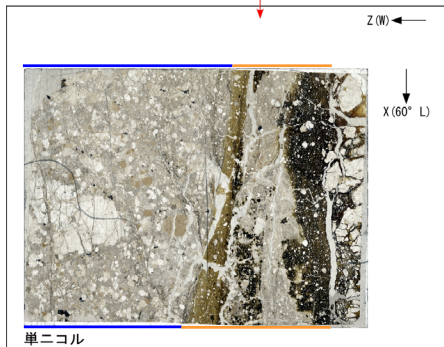
薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



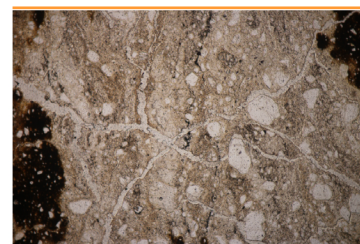
走向・傾斜 NS86° W

X: 条線方向(下向きを正とする)

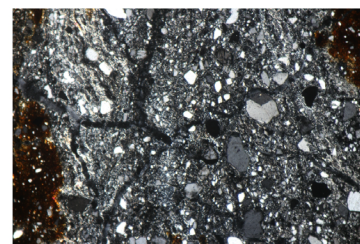
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大

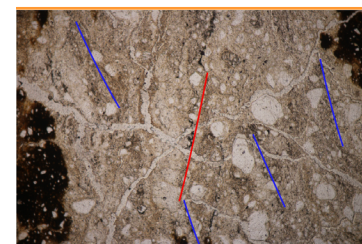


単ニコル

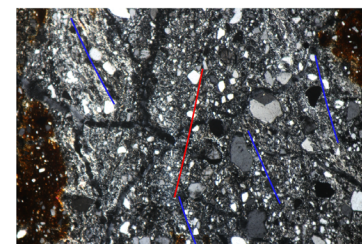


直交ニコル

赤枠内の拡大



単ニコル



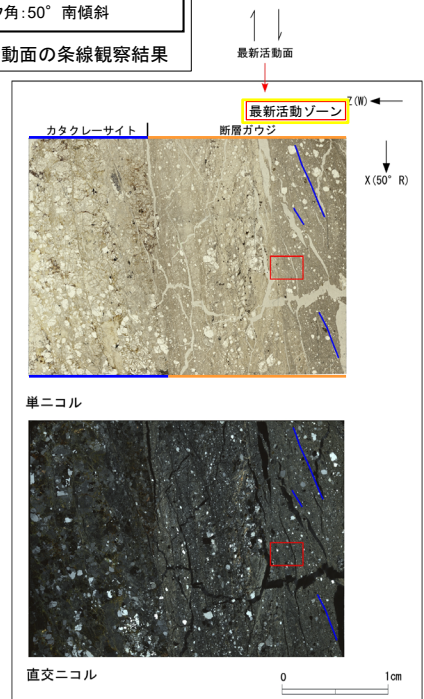
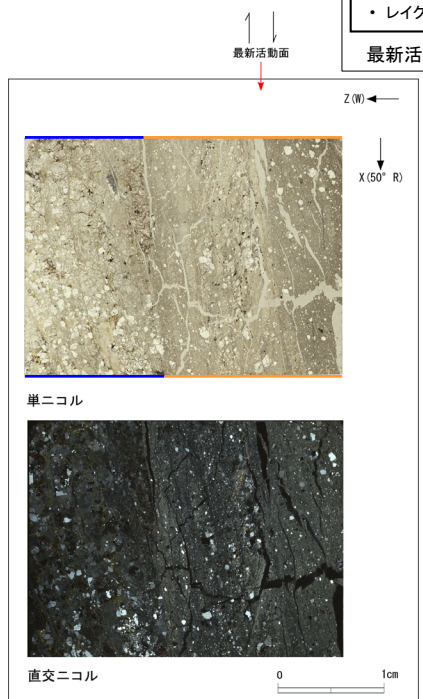
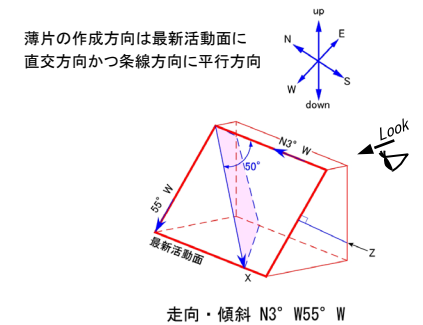
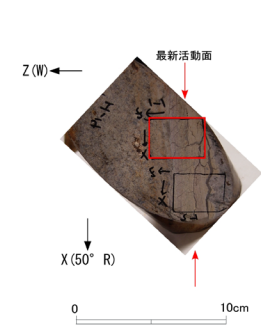
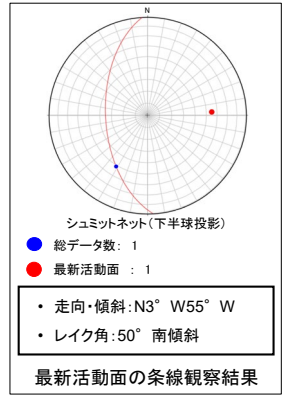
直交ニコル

凡例

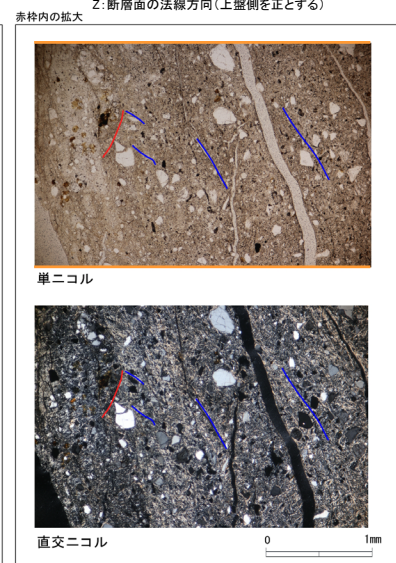
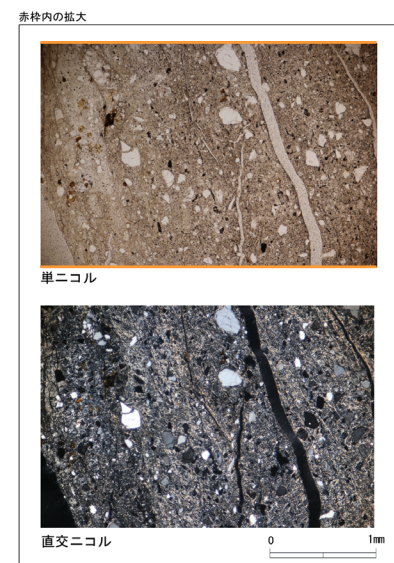
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

H24-H-14 深度4.93~7.81m K断層(1/2)

- H24-H-14のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度4.93m)の変位センスは、右ずれを伴う逆断層である。
- 追加した文献も踏まえて薄片観察を実施したところ、最新活動ゾーンについては、以下の特徴が認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 岩片は少なく、丸みを帯びていることが多い。



ブロックサンプル



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-H-14 深度4.93~7.81m K断層(2/2)

・最新活動に伴うゾーンについては、以下の特徴が認められる。

- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2, 3)
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図3)
- 岩片は少なく、丸みを帯びていることが多い。(図2, 3)

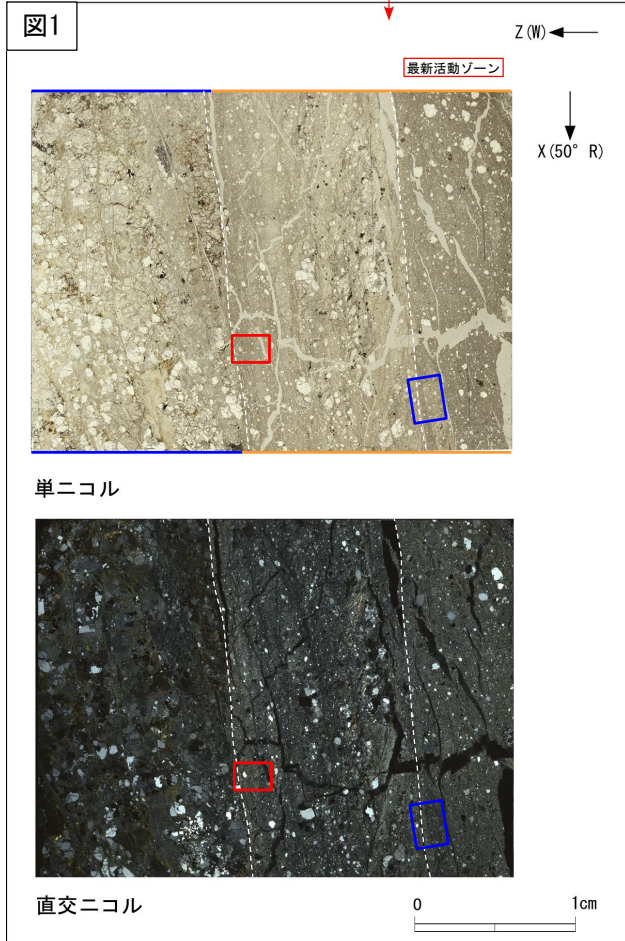
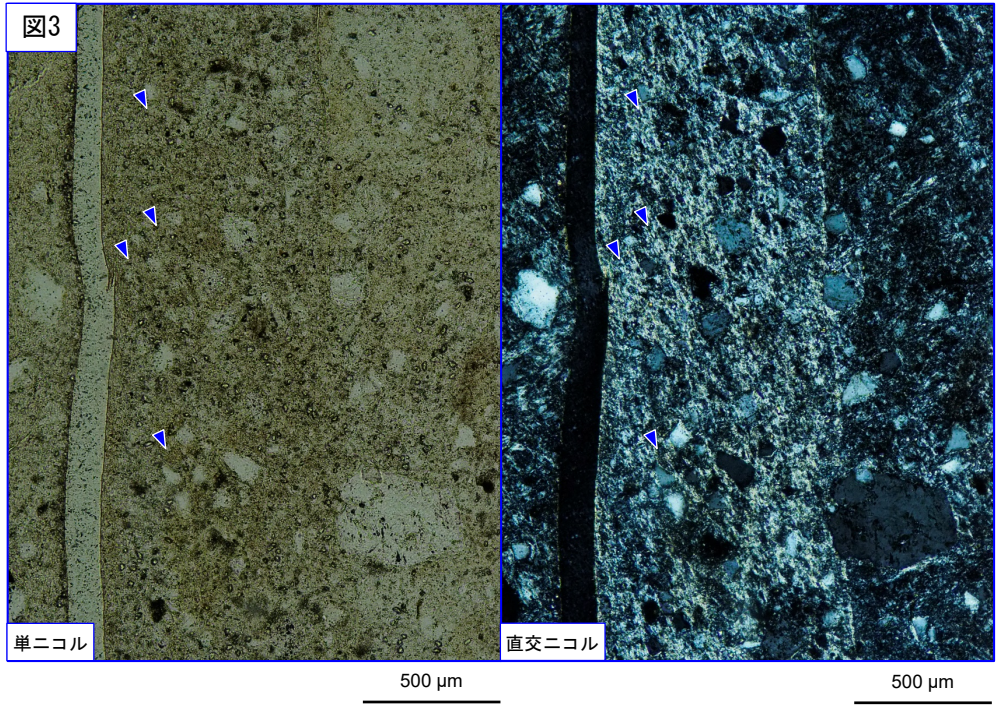
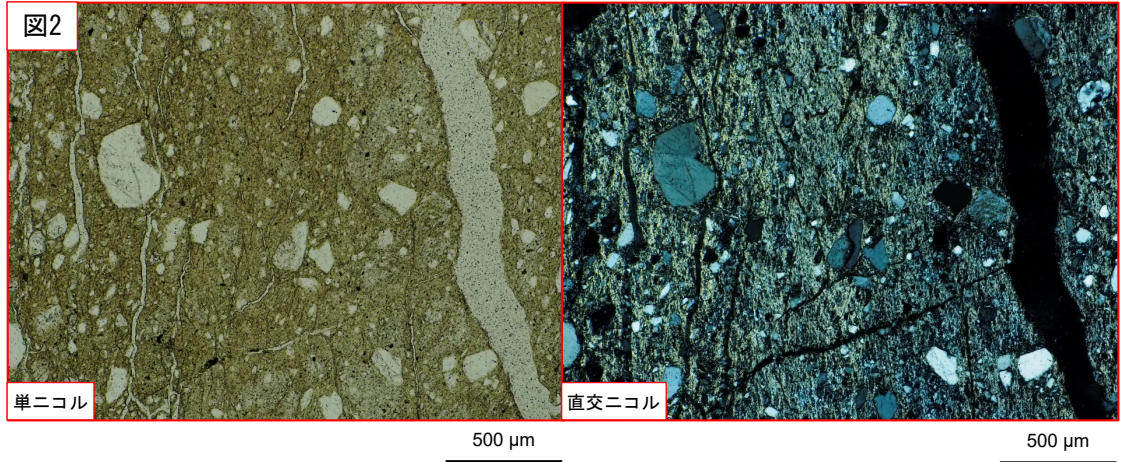


図1では、断層ガウジが異なる複数のゾーンに分帯されている様子が認められる。
破線は認定したゾーンの境界を示す。



青矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。